

1. 公共施設再配置 計画書P183(前期10年)の一覧の中で見直すもの

(3) 高齢者福祉施設の機能統合

①施設の基礎情報

施設名	施設類型	施設規模・建物						利用・運営状況(令和3年度)				備考
		敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	建築年	経過年 (R4現在)	大規模改修 期(建築後 30年)	更新期(建 築後60年)	施設概要	利用者 (人)	歳出 (千円)	歳入 (千円)	
高齢者健康会館 やすらぎの家	高齢者福祉施設	971.29	976.14	1995 (平成7)	27	2025 (令和7年)	2055 (令和37)	(1階)事務室、交流室、浴室A・B、 談話室、軽運動室、食事室、トイレ (2階)集会室、相談室、活動室A・ B・C 倉庫A・B、湯沸室、トイレ	7,213	9,822	1,075	
老人憩の家水晶 苑	高齢者福祉施設	992.69	624.20	2004 (平成16)	18	2034 (令和16)	2064 (令和46)	事務室、ダイルーム、くつろぎサロ ン、トイレ、浴室、健康相談室、大広 間、ラウンジ、談話室	9,374	9,555	1,439	
高齢者温泉交流 館	高齢者福祉施設	1,284.58	777.02	1992 (平成4)	30	2022 (令和4)	2052 (令和34)	事務室、活動室、トイレ、浴室、フロ ア	13,760	19,742	2,117	

②見直しの内容

見直し前(現行の計画を要約したもの)

前期 (2016(平成28)~ 2025(令和7)年度)	中期 (2026(令和8)~ 2035(令和17)年度)	後期 (2036(令和18)~ 2045(令和27)年度)
高齢者健康会館 (やすらぎの家)		
老人憩いの家 水晶苑		
高齢者 温泉交流館		

《凡例》  :見直し前  :見直し後  :解体・売却等

見直し後



再配置の実施時期は未記載

●再配置の手法、時期、位置の考え方

高齢者健康会館(やすらぎの家)、老人憩いの家水晶苑、高齢者温泉交流館は、3施設の大規模改修の時期を踏まえ、2021(令和3)年度から2024(令和6)年度までに拠点となる位置において統合を図る。

●再配置後の面積削減の考え方

再配置後の面積は、各施設の入用人数及び利用状況などを勘案し、施設規模を見込み、利用者数に見合う施設規模を確保することにより、面積削減を図る。

- 再配置前 施設数=3 延床面積2,400㎡
- 再配置後 施設数=1 延床面積1,600㎡

●再配置の手法、時期、位置の考え方

高齢者健康会館(やすらぎの家)、老人憩いの家水晶苑、高齢者温泉交流館の3か所の高齢者福祉施設の利活用の方針については、令和4年度に設置した「高齢者福祉施策のあり方審議会」の検討結果を踏まえて、決定していく。

●再配置後の面積削減の考え方

削減なし

③見直しの理由

●令和4年度から「高齢者福祉施策のあり方審議会」を設置し、「高齢者福祉施設に関する事項」を含め、高齢者福祉施策全般のあり方を検討していくこととなったため。

参考：伊豆の国市高齢者福祉施策のあり方審議会

1. 審議会の概要について

(1) 審議会設置の目的

伊豆の国市において、社会情勢に対応した高齢者福祉施策を推進するため。

(2) 任 務

- ア 市長の諮問に応じ、高齢者福祉施策に関する事項について調査及び審議すること。
- イ 高齢者福祉に関連する事項について意見を述べること。

具体的には、以下の①～⑤について、事業内容の検討及び事業評価を行う予定である。

- ① 在宅高齢者福祉推進事業に関する事項
- ② 在宅高齢者外出支援事業に関する事項
- ③ 長寿祝い事業に関する事項
- ④ 高齢者福祉施設に関する事項
- ⑤ その他的高齢者福祉施策のうち、検討を要する事項（新規事業等を含む）

(3) 組 織

審議会の委員は15人以内とし、次に掲げる者のうちから委嘱する。(任期2年)

- ア 識見を有する者
- イ 高齢者関係団体の代表者
- ウ 市内で活動するボランティア団体の代表者
- エ その他、市長が必要と認める者

(4) 諮問内容の概要

「高齢者福祉施設に関する事項」を含め、高齢者福祉施策全般のあり方について諮問する。

④公共施設劣化状況調査の結果(令和3年度)

名 称	構造部劣化度	部位・設備別劣化度				
		(1)屋根・屋上	(2)外壁	(3)内部	(4)電気設備	(5)機械設備
高齢者健康会館やすらぎの家	B	C	B	C	B	B
老人憩の家水晶苑	B	B	B	B	B	B
高齢者温泉交流館	B	B	B	C	B	B

●評価基準

- ◆ 構造部劣化度・部位設備劣化度
 - A = 概ね良好
 - B = 部分的に劣化(劣化の状態が全体の過半数を超えない)
 - C = 広範囲に劣化(劣化の状態が全体の過半に発生)
 - D = 早急に対応する必要がある(既に機能損失している)

●評価結果

- ◆ 構造部はB判定、部位・設備別劣化度は一部C判定であることから、躯体としては引続き使用できるが、部位・設備等は修繕等の対応が必要となっている。